

らぶらす

NO. **75**
2017.7

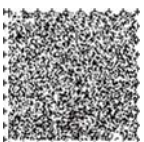
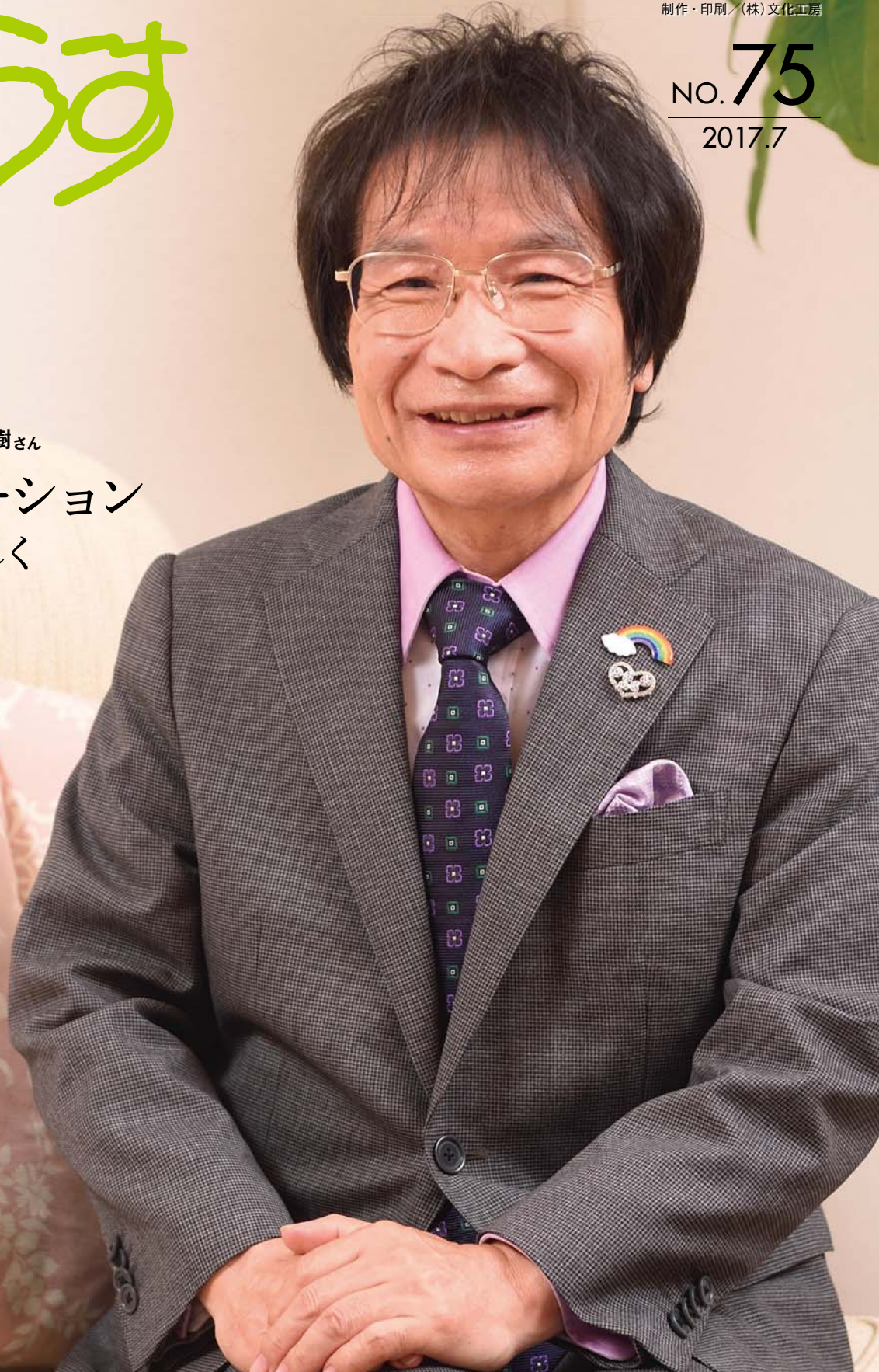
巻頭インタビュー

教育評論家・法政大学特任教授 尾木直樹さん

性はグラデーション ～誰もが自分らしく 生きていい～

世田谷区第二次
男女共同参画プランスタート

らぶらすなひと



この情報紙の表紙には、目の不自由な方などへの情報提供に役立てられている
音声コードを印刷しています。

「音声コード」は紙に掲載された印刷情報をデジタル情報に変えたシンボルで、約2cm角の中に日本語（漢字かな交じり）で約800文字の情報を記録することができます。専用の活字文書読み上げ装置を使用して音声で内容を聞き取ることができます。「音声コード」の横には、視覚障害の方が触覚によりコードの位置を把握できるよう、切り欠きを入れています。



巻頭インタビュー

教育評論家・
法政大学特任教授

尾木直樹さん

性はグラデーション 誰もが自分らしく生きてらさる

子どもたちの幸せを願い、
教育のあり方を問い続ける尾木直樹さん。
LGBTを取り巻く教育現場の課題が注目を集めている今、
すべての子どもたちが、明るい未来に向かって生き生きと歩いていくために、
取り組んでいかなければならないことについて語っていただきました。

一人ひとり違う性
子どもたちに問う

LGBTの児童生徒への配慮事項などをまとめた2015年の文部科学省通知をきっかけに、LGBTあるいは自分の性意識に疑問がある「Questioning(クエスチョニング)」を含めたLGBTQに対する教育現場の関心が、とても大きくなっていますよね。社会が多様性を増している今、まさに僕たち教育関係者がLGBTの教育に取り組まなければならないと訪れているんです。でも、ほとんどの先生は、LGBT教育を体験したことがなく、資料や前例も少ないため何から手をつけていいかと戸惑っています。そこで僕に白羽の矢が立ち、2016年9月に足立区立辰沼小学校でLGBTの授業に臨みました。

この授業で僕がめざしたのは、「人間の性のあり方はそれぞれ違って、誰かが特別だということではない」と子どもたちに気づいてもらうことです。そのことが理解できれば、人権感覚が豊かになり、一人ひとりの自己肯定感も高まって、クラスの仲がこれまでより、もっと良くなる。

男子高に勤めていたころのことです。男子性の強い男の子がいます。その子を好きになる子ができます。そんなときは「この子はあの子が好きなんだ」と理解し、両者を傷つけないように言動や行動にも配慮していました。もちろん、当時はLGBTという概念がなかった時代です。僕は、人権の尊重などの大きなテーマの中に存在する課題のひとつとして、性的マイノリティに関わる問題を捉えていました。

LGBTへの関心を深めるようになったのは、実は明石家さんまさんがテレビ番組で僕を「尾木ママ」と呼んでくれたことがきっかけ。尾木ママとしてお茶の間に知られるようになって以来、LGBTの方々が集う新宿2丁目に誘われる機会が増えました。そこでたくさんのお会いがあったことでどんどん理解が深まったの。LGBTの方の苦労というのが、どれほど深いかということ、ひしひしと感じましたね。

※LGBT
レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった言葉。

尾木ママになったことで 見える世界が広がった

環境さえ整えば、LGBTに対する先生方の理解は深まっていくと思います。だって、性意識で悩んでいる児童生徒がいるということ、先生は言われなくても感じ取っていますから。現役教師だったころの僕も、LGBTの子の存在を明確に認識し

様々なワークを通じて、そんな新しい感覚に導くことをイメージして授業を始めたのですが、子どもたちが本当に一生懸命考えてくれて感動しました。授業を通して、「一人ひとりの顔が違うように性のあり方もみんな違っていいんだよ」ということが、みんなの胸にストンと響いたのよ。今回の授業の成果は期待以上でした。LGBT教育はまだまだ始まったばかり。これから取り組んでいかなければならないことは山ほどあります。真っ先に着手しなければならぬのは、やっぱり先生方のLGBTに関する理解を深めることでしょう。

LGBT当事者を対象にしたあの調査によれば、学校生活でいじめを受けた人が全体の約6割にのぼる一方で、先生がいじめの解決の役に立ったと感じている人は全体のわずか14%だったといえます。「教員が何をどうやったらいいか、まったくわからない」という現場の声も耳にします。でも、先生だけを責めるわけにはいきません。LGBTの知識を身につける機会は、これまで、まったくと言っていいほどなかったのですから。それに、小学校教師の場合だと、

最近英語やプログラミングなど新しい学習の指導に時間をかける必要があつて、ただでさえ時間が足りないの。それにもかかわらず、LGBT教育の教材が提供されることもなければ、模擬授業も実施されない。そうした支援はまったくないので、現場の先生方の対応が追いつかないのは当たり前のことよね。今は一部の先生や支援団体などが個別に力を注いで、いわば「点」の活動が見かけられる状況です。自治体規模の取組みにはまだまだ濃淡がある。せっかく文科省が積極的な姿勢を見せているんだから、この流れに乗って、点と点を結んで線にしていくという感覚で一気に広めることが重要なのではないかと思えます。

多様性を認め合い、 自分らしく暮らせる社会をめざして

世田谷区第二次男女共同参画プランスタート

一人ひとりの人権が尊重され、自らの意思にもとづき、個性と能力を十分発揮できる、男女共同参画社会の実現をめざす、10年間の計画を策定しました。
このプランでは、次の4つを基本目標としています。



4つの基本目標

<p>基本目標 I</p> <p>あらゆる分野における女性活躍推進</p>	<p>基本目標 II</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの着実な推進</p>	<p>基本目標 III</p> <p>女性に対する暴力の根絶</p>	<p>基本目標 IV</p> <p>すべての人が尊厳をもって生きることができる社会の構築</p>
---------------------------------------	--	------------------------------------	--

世田谷区では男女共同参画社会の言葉の定義を「男女だけではなく多様な性を含めたすべての人が尊重され、参画できる社会」とし、基本目標IVの中では、性的マイノリティ等、多様な性への理解と支援について記載しています。

世田谷区第二次男女共同参画プランにおいて、「男女共同参画社会」という言葉の定義を「男女だけではなく多様な性を含めたすべての人が尊重され、参画できる社会」と「多様な性」を明記したことは新しい。このことにより、今後世田谷区において「男女共同参画社会」についてのすべての議論は、性的マイノリティを含んだ多様な性を持つ人も含めることが前提となり、今後の取組みにおいてもとても重要だと考えます。また、基本目標IVの課題の一つとして「性的マイノリティ等多様な性への理解促進と支援」が明記されたことも誇るべき点であると考えています。施策案としても同性パートナーシップにかんする取組みや、性的マイノリティへの相談体制・居場所作りや教育分野における理解促進、就労や災害時における支援が明記され、今後の取組みが期待されます。今後10年の世田谷区が多様な性を含めた男女共同参画社会への取組みが他の自治体へのモデルとなること、そしてなにより、すべての区民にとって過しやすい世田谷区をより実現する一助となることを心より願っています。



薬師実芳さん

薬師実芳(やくし みか) 特定非営利活動法人 ReBit 代表理事。LGBTの子どものありのままのオトナになれる社会を目指し、教育現場、行政、企業等での講演や、LGBTにかんする教材作成、全国での「LGBT成人式」イベント運営、LGBTの就労支援等を行う。著書に「LGBTってなんだろう?」(合同出版)、他。世田谷区第二次男女共同参画プラン検討委員を務めた。

特定非営利活動法人 ReBit
URL: <http://rebitlgbt.org>

世田谷区第二次男女共同参画プランの策定を終えて

近頃は、LGBTをテーマとする映画を上映する「レインボー・リール東京」の開催に際してメッセージを贈ったり、LGBTの方々が多数参加して実施される「東京レインボープライド」のセレモニーで挨拶したりするなど、LGBTの方々に支援する活動に参加する機会がどんどん増えています。

イベント会場で世田谷区の保坂展人区長にお会いしてお話することも、たびたびあるのよ。自治体の先頭を切って、LGBTの方々を含む多様な人たちの誰をも排除しない、インクルーシブな社会の実現に力を注いでいらっしやることを、本当に心強く思っています。僕たち教育関係者

にとつて、「すでに世田谷区が、こんな取組みをしています」と言えることは素晴らしいことなんです。単なる理想論ではなく、説得力をもって子どもたちにも伝えられますから。

インクルーシブな社会の実現のためには、保坂区長のように、意識の高い首長さんが先導して進めるのが効果的だと思います。たとえば気概のある10の自治体の首長が集まってサミットを開催するというのはどうかしら。そんなイベントを大々的にやると、影響力が全然違うし、LGBTの方々の支えになると思うの。実現できたなら、僕も全力で応援するつもりです。



尾木直樹
教育評論家。法政大学特任教授。臨床教育研究所「虹」所長。1947年、滋賀県生まれ。早稲田大学卒業後、私立高校、公立中学などで22年間にわたり子どもを主役とした創造的な教育を展開。その後、大学教員に転身。2004年に法政大学キャリアデザイン学部教授。12年に法政大学教職課程センター長・教授。17年に定年退官し、現在は特任教授を務める。主宰する臨床教育研究所「虹」では、所長として現場に密着した調査・研究に取り組んでいる。テレビ出演も多く、「尾木ママ」の愛称で幅広い層に親しまれている。

みんなの声 世の中を変える

LGBTを取り巻く社会環境は、これから大きく変わっていくはず。だからLGBTの子どもたちは、自分が周囲の人と違う特殊な存在だなんて考えなくてほしいの。性は一人ひとりで異なるもの。100人いたら100通りの性があるんです。男性、女性とはつきり分かれていないものではなくて、その間にきれいなグラデーションが描かれるんじゃないかと僕は思っているのよ。

これからの社会においては、このように一人ひとりを大切に、個性に寄り添うという感覚を広めていく必要があります。そのための重要な役割を担うのが教育であることは間違いないと思います。それなのに日本の教育システムは旧態依然としていて、授業から服装から何まで、すべての児童生徒が同じことをしなければならぬ一斉教育がいまだにまかり通っている。それに加えて効率主義、競争主義の価値観を押しつけられるものだから、誰もが息苦しい思いをしていますよね。

この閉塞した状況を変えるために

も、LGBTの子どもたちには、自分の苦勞や辛さを伝えてほしいと思います。一人、また一人とその声に耳を傾けるようになることから新しい社会の基礎づくりが始まって、ほかのLGBTの方々はもちろん、そうでない人たちをも幸せにすることにつながっていくと思うんです。

時代の先頭に立ち、進路を切り拓いていく人間が筆舌に尽くしがたい苦難に見舞われるのは歴史が物語っています。政治でも、文化芸術でも、どんな分野に携わっていても、先導者が大きな苦しみや辛さを体験するのは同じ。それでも諦めず、社会に働きかけ続けていけば、ふっと雪解けが訪れます。「正しいものは輝く」——それが歴史の真実だと僕は思っているんです。

だから、今の生きづらい時代を変えるためにも、LGBTの子どもたちの声に耳を傾けることが大切です。誰もが安心してありのままに生きられる社会を実現するために、教育にできることは何か。これからも考え続けていきたいです。

※インクルーシブ
包括的。すべての要素を広く網羅しているさま。

区を取り組む を紹介します

セクシュアル・マイノリティのための 世田谷にじいろひろば



電話相談〈予約不要・相談日のみ〉

当事者、そうかもしれないと悩んでいる方、ご家族や支援者の方などからのご相談に応じます。

専用電話番号 **03-6805-5875**

第1 木曜☐夜間
午後6時～9時

第2 土曜☐夜間
午後6時～9時

第3 木曜☐
午後1時30分～4時30分

交流スペース〈予約不要・当日直接会場へお越しください〉

LGBTQが居心地よさを感じ安心して自己表現できる場を提供します。

会場：世田谷区立男女共同参画センターらぶらす

第4 土曜
午後2時～4時

電話相談員さんからのメッセージ

開始して早ひと月。電話はくるだろうか…との心配をよそに、性的マイノリティやその家族からの電話が今日も鳴っています。週1回はつながるので、その日のこと、気になる人、言われたこと、目にとまった記事など、性的マイノリティに関する話題ならなんでもOK。交流会に出たいけど様子はどうかというシャイなあなたも、LGBTQへの対応に迷うアライ(支援者)のあなたも、じっくり話がきける気さくな相談員にまずはお電話ください!

予告 8/26(土) 性的マイノリティのためのフォーラム開催予定。詳しくは、男女共同参画センターらぶらすまでお問い合わせください。

世田谷区 パートナーシップ宣誓

世田谷区では、2015年11月から同性カップルの「パートナーシップ宣誓」の取り組みを始めました。「パートナーシップ宣誓」を行ったカップルに宣誓について伺ってみました。



高島由美子さん(左)、高野幸子さん(右)カップル

宣誓をしようと思った理由

高島 この取り組みが始まる以前、私たちを含めた区に住む同性カップルが10組ほど集まり、区長に「同性カップルを公的に認めてほしい」と要望書を提出しました。その時、力を合わせて行政や社会に訴えることの大切さを感じました。個人的にはお互いに「家族だ」と思っていれば、公に宣誓する必要はないのかもしれないのですが、やはりLGBTのことをもっと知ってもらいたいと思い、私たちも宣誓することにしました。

高島 宣誓後の変化
とても反響がありました。高野

はろう者でトランスジェンダーです。手話教室を主宰し、夫婦漫才などでもして講演の依頼も多くあります。これまで講演では自分の半生について話すことが多かったのですが、宣誓以降は「LGBTについてもっと教えてほしい」という講演依頼がかなり入るようになってきました。

宣誓して良かったことは?

高野 LGBTの存在を多くの人に知ってもらった大きなきっかけになったので良かったと思います。

宣誓する前に、高野が骨折し手術をしました。手術には家族の同意書が必要でしたが、私は家族ではないからとサインさせてもらえませんでした。もし面会謝絶という事態になっていたとしても、一緒に住んでいるのに家族ではないという理由で病室に入ることもできなかったかもしれません。宣誓によって「二人は家族」だと公に認めてもらえました。これからこうしたことが解消されていくことを期待します。

高野 宣誓の手続きについて
とても簡単で良いと思います。あらかじめ予約をする必要はありませんが、公正証書などを用意しなくてもいいので、とても楽ですね。ただ、知

り合いからよく「結婚おめでとう」と言われてしまうのですが「パートナーシップ宣誓」は同性婚を認めたものではありません。ですが「ここから誰もが住みやすい社会への第一歩が始まるのだ」と感じています。

高野 LGBTであることを誰にも相談できず悩んでいる人はとても多いです。でも「LGBTを認めた自治体がある」と前向きに捉えてほしいですし、社会の意識も変わってほしいと思っています。

今後に向けて

高野 教育の中で、LGBTについてちゃんと教える必要があると感じています。左利きの人がいるのと同じ割合で、LGBTの人も存在していると言われていきます。それなのに親にも認めてもらえず苦しみ、悩んでいる人はとてもたくさんいます。LGBTについて正しく理解してもらい、そして身近に感じてもらうためにも教育機関などで講演していきたいです。

高島 私はもっと地域の人たちと会話をしたいと思っています。「同性カップルなの?」と聞いてくれていいんです。そうすれば偏見もなくなるのではないのでしょうか。会話をすることで理解し合いたい、そう思っています。



すべての働く女性が 輝ける社会の実現を目指して



MY STORY K.K. 代表、
企業研修講師、女性活躍コンサルタント、
プロフェッショナル・キャリア・カウンセラー®

久保田一美さん
KAZUMI KUBOTA

自分らしく、生きがいを持って働きたいと願う女性を応援したいと、平成27年に「MY STORY K.K.」を立ち上げました。

会社員時代の経験をもとに、女性活躍や女性のキャリア形成をテーマとする企業向けの研修やコンサルティングを提供しているほか、同様のテーマで講演や執筆活動をしています。

起業は長年の夢でしたが、いざ準備をはじめると、わからないことだらけ。そんなとき区報で、男女共同参画センター「らぶらす」が主催する「女性のための起業支援塾&サロン」を知り、すぐさま参加しました。先生の教えを全部吸収しようと、講義はすべて最前列で受けました。講座終了後には、実践の場である「起業ミニメッセ」に参加し、自分の事業やサービスを来場者にアピールしました。講座に加え、実践のチャンスが用意されていることが、らぶらすの

起業支援の素晴らしさだと思っています。

起業支援塾を受講したことで、自分と同じ立場の女性起業家たちと知り合うことができました。刺激しあい、励ましあえる仲間がいたからこそ、夢に向かって歩いていけるのだと思っています。

研修やコンサルティングの仕事をしていると、「働き続けたいけれど、仕事と家庭の両立はできそうにない」と考えている女性に、よく出会います。そんな人たちに私は、「ライフイベントが訪れたとき、いったん緩めてもいいから、細く長く続けてみて」と伝えていきます。長く働き続けると新たな発見がある、というのが私の考えです。私自身、そうやって働き続けてきた結果、今や仕事が生きがいとなりました。

すべての女性が、自分にぴったりの働き方や生き方を選べる社会の実現に、これからも貢献していきたいと思っています。

世田谷区立男女共同参画センター“らぶらす”

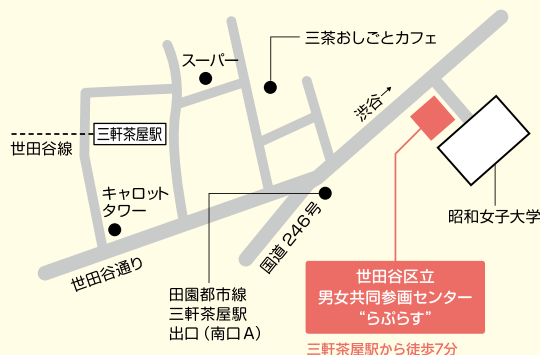
〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-40 グレート王寿ビル3～5階

☎6450-8510 ☎6450-8511

【開館時間】午前9時～午後10時

【休館日】毎月第3月曜日および年末年始

【施設概要】研修室、情報・交流コーナー、子ども室、資料コーナー、授乳コーナー ほか



女性のための相談事業

相談室では、暮らしの中の悩み、就職・転職、仕事と家庭との両立など女性が抱える悩みについて相談事業を行っています(要予約・相談料無料)。

女性のための悩みごと相談

毎週水曜日

13:00～20:00

面接相談(予約制)
相談当日の11:00～18:00に電話で
☎6453-1813

女性のための働き方サポート相談

第1・第3土曜日、第4火曜日

10:00～16:00

面接相談の予約(前月1日～相談日前日)
☎6450-8510
当日の面接相談の予約(当日のみ)
☎6453-1813

【らぶらすホームページ】<http://www.laplace-setagaya.net/>

世田谷区ホームページ → 施設 → 暮らし・生活関連施設 → 男女共同参画センター“らぶらす” をご覧ください